まちのスケッチブック

夢をかたちに…あたらしいまちづくり VOL.22

教育問題について

泉佐野市議会議員 千代松（ちよまつ） 大耕（ひろやす）（30歳）

教育問題について

昨今、凶悪犯罪の若年齢化、不登校、学級崩壊や学力低下など教育に関わる様々な問題が新聞、テレビを賑わせています。現在の日本の教育が直面している問題をどのようにして解決していくのか、荒廃した教育現場をいかに立て直していくのか、様々な議論が全国各地で起こっています。

それは泉佐野市におきましても例外ではありません。泉佐野市のある学校では学級崩壊が学年崩壊につながり、それが学校崩壊という現象を引き起こしているといった深刻な問題やそれぞれの学校が抱えている諸課題が山積しております。なぜこのようになってしまったのか？一番の理由は教師と生徒の関係が崩れてしまっているというところにあると考えます。

学校の先生は教育という枠組みの中でそれぞれの生徒の人格形成に大きく携わります。また生徒は教育を受けているという過程の中で社会における規範などを身につけていきます。そこにはある種、先生側からの強制も存在します。教師と生徒という両者の間には一定の緊張感が必要であると思います。しかしこの関係のバランスが現在崩れてしまっていることが日本の教育を荒廃させている大きな原因だと私は考えます。

両者のバランスを復活させるには何が必要かと考えたとき、私は学校や先生達が毅然とした態度と熱意を持って生徒との関係を修復させる努力をしなければならないと考えます。先生から生徒に対しての"厳しいしつけ"（強制）も必要となってくるでしょう。それには保護者側の理解も同様に必要であります。そのために最終的に今なにをすればいいのかと考えたとき、まずは学校（教師）と地域（保護者）がより深い信頼関係を築いていくことが前提となるのではないでしょうか。

今、泉佐野市では学校と地域を結ぶための様々な取り組みが行われています。こういった取り組みを行政としても積極的に支援していき、学校と地域の信頼関係がより深まる結果を生み出せれば、それは泉佐野市の教育にとって大きな財産となるはずです。

そういった観点も踏まえて12月議会では自由民主党泉佐野市会議員団を代表して「教育について」質問いたしました。

12月議会代表質問

○各学校における地域との交流事業について

千代松…学校・地域・家庭が連携を深め、一体となって児童・生徒を育てていくという取り組みがPTAや子ども会を中心にして各学校において行われている。今後は泉佐野市としても積極的に支援していく必要があると考えるが？

答弁…第二小の「ニコニコまつり」末広小の「ピコピコまつり」北中小の「北中子どもまつり」日根野小の「日根小ふれあい祭り」中央小の「中央のWA」など保護者や地域の人たちが一緒に楽しめる取り組みが現在各学校で行われている。中学校においては地域教育協議会による取り組みも行われている。このような地域と学校の交流をさらに充実するように図っていく。

○英語教育について

千代松…世界の玄関都市である泉佐野市の子どもたちのために、新田谷市長は英語教育には力を入れていくと常々言っている。私もそうあるべきだと考える。今後の泉佐野市の英語教育はどのような特徴を出していくのか？

答弁…泉佐野市では英語指導助手として3人のネイティブスピーカーを主に中学校に配置し異文化理解やコミュニケーション能力の育成に活用している。小学校や幼稚園においても英語指導助手や中学校の英語教諭の派遣を行っている。今後も英語指導の創意工夫や地域の人材活用等、英語力の向上を図るよう努めていく。

○通学区審議会について

千代松…泉佐野市の通学区に対しては様々な議論が行われてきた。通学区域制度の見直しも含めた意見をもらうために9月より泉佐野市立学校通学区審議会を立ち上げ、月に一回開催しているが、現在はどのような議論がなされているのか？

答弁…平成15年度に入ってから3回の検討委員会を開催した上で、9月から通学区審議会がスタートした。主な意見の内容としては完全な自由選択や一部自由選択の是非、弾力的運用の拡大や調整区域拡大の是非などである。教育委員会として審議会の答申を踏まえて最終的にどのように進めていくか決める。

○男女平等教育について

千代松…泉佐野市における男女共同参画社会の実現を目指して泉佐野市男女共同参画推進計画「人ひとプラン」が策定され、それに基づく様々な取り組みが行われている。その計画の中では、教育における男女平等教育の推進という基本課題がある。どのような取り組むが行われているのか？

答弁…具体的には戦後の男女平等の歩みや現在の社会状況、制度や慣習に残る性別役割分担意識等についての学習や男女平等に根ざした性教育等に取り組んでいる。また男女混合名簿の実施状況は幼稚園では全園、小学校は7校で実施、中学校は2校実施している。

○教員について

千代松…去る11月30日に行われた青少年指導員連絡協議会の40周年記念式典の記念講演で、元高校教員で現在はミキハウスの柔道部監督の橋本氏の講演を聞いた。その中で、「生徒たちに目標を抱かせ、それに対して指導者は情熱を持って生徒に接すれば、どのような目標でもやり遂げることができる」とあった。そういった情熱を持って生徒に接する先生の姿が、現在の教育の現場においては本当に求められているのではないかと考える。私が小学生、中学生の頃はそのような先生が多くいた。しかし卒業してからの15年で情熱を持って生徒に接する先生が少なくなったのではないかと感じている。このような私の考えに対しての見解は？

答弁…教育を推進していくには、施設に関するハード面と教員の資質に関するソフト面の充実といった側面がある。教育を受ける側にとって最も重要な教育環境は、家庭では保護者、学校では教員であると認識している。教員は、教育愛を持って教育者としての専門性を発揮し、子どもとコミュニケーションができてこそ向上的な変容を子どもにもたらすことが可能になると考える。しかし現実には教育者としての専門性が発揮できずに苦悩する教員もいる。教育委員会としては、校長のリーダーシップの向上、人材育成を目的とした研修の実施や校内体制づくり支援に努めていく。

通学区審議会

泉佐野市教育委員会から「泉佐野市における通学区域制度の見直し（通学区域制度の弾力的運用の方策を含む）について」という諮問を受けて、泉佐野市立学校通学区審議会が昨年の9月から開かれています。泉佐野市におきましては、昭和51年の第3中学校の分離及び第一、第二中学校の統廃合に伴う新池中学校、佐野中学校の新設に係る見直し以来、通学区に関しては大きな見直しが行われていませんでした。それから現在に至るまで、それぞれの学校では、児童・生徒数の増減や地域整備に伴う状況は大きく変化し、将来を見据えた通学区の再編が必要と議会では私も含めた多くの議員が提唱し続け、また地域住民の方々からも様々な要望が議会、教育委員会、泉佐野市に寄せられました。それらが審議会設置という結果につながったわけです。今回は2月12日（木）に行われました第5回審議会の中で答申（案）が出てまいりました。具体的な措置として「小学校児童について、弾力的運用の拡大を実施することが望ましい」とあり、以下の内容となっています。

具体的措置案

過密規模校	普通規模校	過疎規模校
児童数の増加等で教室が不足し、新たに児童を受け入れることが困難な学校	新たに児童を受け入れると教室不足が生じる可能性のある学校	児童数の減少により、空教室があり、新たに児童の受け入れが可能な学校
第一小学校・日根野小学校 中央小学校・日新小学校	第二小学校・北中小学校 長南小学校	第三小学校・上之郷小学校 末広小学校・佐野台小学校 大木小学校・長坂小学校

運用にあたっての条件　密（過密校）　普（普通校）　疎（過疎校）

×密→密	○密→普	○密→疎
×普→密	×普→普	○普→疎
×疎→密	×疎→普	×疎→疎

＊保護者の希望により実施し、保護者に対しては十分な説明をする。
＊受け入れ人員を超える場合は抽選とする

この措置はそれぞれ各学校間のバランスを保ち、また空教室の有効利用をするための運用方法であります。これによりますと例えば第一小学校区域の児童の保護者は末広小学校や第二小学校を希望することが出来ますが、末広小学校区域の児童の保護者は第一小学校や第二小学校を希望することが出来ません。これは答申として正式決定後、教育委員会で諮られ、平成17年度からスタートする予定であります。これに関しまして何かご意見等がございましたらご連絡ください。

連絡先　泉佐野市松原2-5-31
TEL　58-1708
FAX　69-0311

ホームページ　http://www3.ocn.ne.jp/～chiyo51/
メール　chiyoma51@hotmail.com
発行部数累計　335,000部　2004.3第22号

＊「まちスケ」のバックナンバーが必要な方は連絡ください。